

# 医 と 社 会 I

責 任 者	氏 名	安武 亨	内 線	7987
	教 室	先端医育支援センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	1年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	医と社会7.5単位の一部
英語名	Medicine and Society		

## 1. 授業のねらい・方法・到達目標

医学生として図書館の利用法、プライマリヘルスケアから先進医療についてまで幅広い知識を得るとともに、チーム医療および患者の立場に立った医療に必要な患者の心の理解、患者とのコミュニケーションを学ぶ。同時に体験実習を通して、医師の立場から（病院実習）、リハビリ、介護の面から病院やリハビリ施設で病める人の立場に立った医療を実感する。また、地域包括ケアシステムを理解し、診療機具を実際に操作する中で、診療の心得を習得する。

## 2. 授業内容（講義・実習項目）

### 1) 実習

- (1) 体験実習 1 長崎大学病院医局
- (2) 体験実習 2 リハビリテーション施設
- (3) 診療の心得

### 2) 医学テーマ

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| (1) チーム医療       | (7) 対人関係     |
| (2) プロフェッショナリズム | (8) 熱帯医学     |
| (3) 地域包括ケアシステム  | (9) 感染症      |
| (4) 地域医療        | (10) 臨床倫理    |
| (5) 臓器移植・再生医療   | (11) 図書館の利用法 |
| (6) プライマリヘルスケア  |              |

## 3. 教科書、参考書等

適宜プリントを配付する。

## 4. 成績評価の方法・基準

レポート、実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習には全て出席すること。講義を欠席した学生には別途課題を課します。

## 5. 教員名

医育支援センター：安武亨、田中邦彦、分部哲秋、桑原宏永  
 地域包括ケア教育センター：永田康浩、久芳さやか、石居公之、植木郁子、  
 牟田久美子、松坂雄亮、濱口由子  
 保健学科：松坂誠應、大石和代、沖田実、東登志夫  
 地域医療学：前田隆浩、清水悠路、門田耕一郎  
 医療教育開発センター：浜田久之  
 図書館担当者（学術情報部）：志波原智美、松村悠子  
 第2外科：江口晋  
 非常勤：八坂貴宏（長崎県離島医療圏組合上五島病院）  
 非常勤：永田耕司（活水大学）  
 熱帯医学研究所：森田公一  
 熱研内科：有吉紅也  
 非常勤：荒木利卓（長崎医療センター）

## 6. 備考

学外実習については、オリエンテーションを行うので実施要項に従う。

医と社会 I 授業予定(1年前期)

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室	
4	8	火	1	授業ガイダンス・クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職者の役割 総論 (1)	保健学科・松坂、教務委員 (保健学科と共修)	第2講義室	
			2	クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職者の役割 (2)	保健学科・大石、沖田、東 (保健学科と共修)		
4	15	火	1	クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職者の役割 (3)・クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職者の役割 (4) 大学病院におけるチーム医療とQOL	門田、病院長、看護部長、リハビリ部 (保健学科と共修)	第2講義室	
			2	ワークショップ (1) “望ましいチーム医療について考える”	教務委員 (保健学科と共修)		
4	22	火	1	ワークショップ (2) “望ましいチーム医療について考える”	教務委員 (保健学科と共修)	第2講義室	
			2	ワークショップ (3) 発表考える “望ましいチーム医療について”	保健学科教務委員 (保健学科と共修)		
5	13	火	1	医師のキャリアパスとプロフェッショナリズム	医療教育開発センター・浜田	第2講義室	
			2	医と社会	医育支援センター、地域医療学、地域包括ケア教育センター		
			3	医学修学の要点・大学病院の役割	医育支援センター、地域包括ケア教育センター		
			4	病院実習に向けて・オリエンテーション	医育支援センター・地域包括ケア教育センター		
				A	B		
5	20	火	1	リハビリテーション施設の役割	体験実習 1 (長崎大学病院医局)	医育支援センター・医学分館	第2講義室 CBT室
			2	図書館の利用法・情報検索実習			
			3	診療の心得			
			4				
5	27	火	1	体験実習 1 (長崎大学病院医局)	リハビリテーション施設の役割	医育支援センター・医学分館	第2講義室 CBT室
			2		図書館の利用法・情報検索実習		
			3		診療の心得		
			4				
6	3	火	1	診療の心得	体験実習 2 (リハビリテーション施設)	地域包括ケア教育センター 地域医療学、医育支援センター	第4講義室
			2				
			3				
			4				
6	10	火	1	体験実習 2 (リハビリテーション施設)	診療の心得	地域包括ケア教育センター 地域医療学、医育支援センター	第4講義室
			2				
			3				
			4				
6	17	火	1	体験実習のフィードバック・まとめ	医育支援センター、地域医療学、地域包括ケア教育センター	第2講義室	
			2				
6	24	火	1	臓器移植・再生医療	II 外科・江口	第2講義室	
			2	プライマリヘルスケア	非常勤・八坂		
7	1	火	1	対人関係	非常勤・永田	第4講義室	
			2	熱帯医学	熱研・森田		
7	8	火	1	感染症とは	熱研・有吉	第4講義室	
			2				
7	15	火	1	臨床倫理入門	長崎医療センター・荒木	第4講義室	

# 人間生物学

責任者	氏名	蒔田 直昌	内線	7031
	教室	分子生理学 (生理学第一)	e-mail	nagasakimp@gmail.com
	オフィスアワー	(月) 17:00~18:00		

対象年次・学期	1年・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Human Biology		

## 1. 授業のねらい・方法・到達目標

これから学ぶ医学を容易に受容できるようにするために、

- (1) 人間のミクロからマクロにいたる諸器官の構造とその生理機能、ライフサイクルおよび分子細胞レベルでの生命活動の基本的知識を学んで、人間という生命の全体像を大まかに俯瞰し、把握する。
- (2) 地球というBiosphere のなかで進化し、社会生活を営む人間は環境と調和して存在しなければならない事を理解する。

人間生物学のカリキュラム上の位置づけは下記の通りである

- 1) 人間という生命の全体像を俯瞰する。
- 2) 医学がどのようなものか大まかにつかむ。
- 3) 地球、環境、社会、健康、病気、心など幅広い分野で問題意識をもち、将来何をなすべきかを考える。
- 4) 人体の構造と機能・代謝の各系を学び易くするとともに、各系がより高度の内容を教授できる。
- 5) 科学及び医学英語になじませ、英語を読み、書き、聞いて話せるようになるための基礎を作る。

## 2. 授業内容（講義・実習項目）

講義：講義は教科書の予習を前提として進める。毎回の講義の最後に小テストを行う（連続した講義の場合は最後のコマの後に行う、授業予定参照）

## 3. 教科書

Sylvia S. Mader著のHuman Biology 13th Edition (McGraw-Hill Companies 新版)を教科書とするので必ず購入すること。（生協医学部店で取り扱う）

## 4. 成績評価の方法・基準

カリキュラム作成と担当教官の人选は人間生物学運営委員会（教官4名、代表蒔田直昌）が行う。委員会は学生の講義評価を教官にフィードバックして講義内容の向上に努力する。人間生物学の評価は各担当教官の作成した小テスト・講義出席・期末試験を考慮して、60点以上を合格とする。

## 5. 教員名

医学部の教官が分担して講義・実習を行う。

非常勤講師：Luc Loosveldt, James Briganti, Todd Saunders,

## 6. 備考

テキストによる予習復習を行なうこと

人間生物学授業予定（1年前期）

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	7	月	1	Introduction of Human Biology	Luc Loosveldt/ James Briganti	第2
4	7	月	2		Luc Loosveldt/ James Briganti	第2
4	14	月	1	科学的方法論(1-17)	3 解剖・小路	第2
4	14	月	2	組織と器官(67-84)	3 解剖・小路	第2
4	21	月	1		3 解剖・小路	第2
4	21	月	2	感染症(154-167)	感染分子・西田	第2
4	28	月	1	循環器(91-104)	循内科・前村	第2
4	28	月	2	血液(113-126)	原研内科・宮崎	第2
5	12	月	1	リンパ系と免疫(132-149)	免疫機能・由井	第2
5	12	月	2		免疫機能・由井	第2
5	19	月	1	視覚(318-322)	眼科・北岡	第2
5	19	月	2	消化器(168-182)	2 外科・江口	第2
5	26	月	1	呼吸器(196-209)	2 内科・河野	第2
5	26	月	2	腎臓・尿路(218-228)	泌尿器科・酒井	第2
6	2	月	1	骨と軟骨、骨格、関節(238-257)	2 解剖・弦本	第2
6	2	月	2		2 解剖・弦本	第2
6	9	月	1	筋肉、筋収縮、運動(270-277)	整形・富田	第2
6	9	月	2	筋肉、筋収縮、運動(260-270)	1 内科・白石	第2
6	16	月	1	神経：解剖学的理解(284-303)	1 解剖・森	第2
6	16	月	2	神経：生理学的理解(284-303)	2 生理・篠原	第2
6	23	月	1	薬物治療と薬物依存(304-306)	薬理・有賀	第2
6	23	月	2	ホメオスタシス(84-90)	1 生理・蒔田	第2
6	30	月	1	聴覚・平衡覚(324-329)	耳鼻科・高橋	第2
6	30	月	2	内分泌(333-338)	原研分子・永山	第2
7	7	月	1	生殖：男性(360-366)	泌尿器科・井川	第4
7	7	月	2	生殖：女性(366-373)	産婦人科・吉田	第4
7	14	月	1	人類の進化(509-531)	1 解剖・森	第1
7	14	月	2		1 解剖・森	第1
7	28	月	1	人口問題、環境(567-581)	Todd Saunders	第1
7	28	月	2		Todd Saunders	第1

※ 薬学部との共修（医学部第2講義室） 6月30日（月）まで

# 生 体 分 子 系

責任者	氏名	伊藤 敬	内線	7037
	教室	生化学	e-mail	tito@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午後1時～午後5時		

対象年次・学期	1年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3
英語名	Biochemistry		

## 1. 授業のねらい・方法・到達目標

生化学は生命現象を物質レベルの変化で説明しようとする学問である。すなわち生化学的知識とその思考法は生命現象の理解のみならず基礎と臨床を含めた医学全般を理解するためにも不可欠である。生体分子系の講義では、蛋白質、糖質、脂質などの生体分子(Biomolecule)の構造・機能・代謝について、生化学的な基本的事柄を学び、細胞、臓器さらには個体の機能や形態と関連させながら分子レベルで理解することを学ぶ。これらの基礎知識の習得のみでなく、種々の疾患の病態や治療を分子レベルで理解しようとする姿勢を養うことが目標である。

さらに講義の内容の一部は実習により再確認する。実験・学習に際しての心構え・態度を養い、また実験結果のまとめ方を学ぶ。各実験項目は各担当教官が設定した目標に従い、計画されているが、学生個々がこの項目の実験を行うことにより、何を学び、何を修得するのか、目標を定め実験にあたるのが極めて大切になる。そのためには、予習が不可欠であり、各項目の内容等については、予め各担当教官からの説明があるが、実習の手引を熟読して内容を理解した上で実験を行うこと。

## 2. 授業内容（講義・実習項目）

次の項目について講義を行う。

(1)生命に必要な元素 (2)有機化合物 (3)化学反応論 (4)有機電子論 (5)不飽和炭化水素 (6)医薬品の化学 (7)生体分子(糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸) (7)酵素の構造と機能 (8)代謝総論 (9)糖質の代謝 (10)脂質の代謝 (11)ヌクレオチドの代謝 (12)アミノ酸の代謝 (13)ポリフィリンの代謝 (14)臓器に特有な生化学

## 3. 教科書

書名	著者	出版社	定価
ヴォート生化学上下(3版) 又は ヴォート基礎生化学(3版)	村松正實 訳	東京化学同人	13,400円
	村松正實 訳	東京化学同人	7,600円

## 4. 成績評価の方法・基準

授業内容について100点満点の筆答試験を行い、60点以上を合格とし成績評価とする。実習に関してはレポート、実習状況、出欠状況等を総合して評価する。生化学実習は生化学試験受験のための必修課題である。

## 5. 教員名

生化学：伊藤 敬、中川武弥、水崎博文、相原仁  
 原研生化学：浦田芳重  
 原研生化学：後藤信治  
 薬学部教員：大庭 誠、齋藤 義紀  
 非常勤：宮西隆幸（環境科学部）、  
 村松正実（埼玉医科大学）

## 6. 備考（準備学習等） 教科書による予習復習

生体分子系授業予定（1年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	7	月	3	生命に必要な元素とその振舞い	原子の電子配置、化学結合と混成起動	薬学部・大庭 誠	第2
4	7	月	4	有機化合物の多様性	立体構造の表示と異性体の分類、命名	薬学部・大庭 誠	第2
4	8	火	3	代謝総論	細胞内小器官と代謝	生化学・伊藤	第2
4	8	火	4	細胞核の生化学	ゲノムの構造	生化学・伊藤	第2
4	14	月	3	有機化合物の振舞い	電気陰性度、酸性度、共鳴、芳香族性	薬学部・大庭 誠	第2
4	14	月	4	化学反応論	結合エネルギーと遷移状態、速度支配と熱力学支配、反応中間体	薬学部・大庭 誠	第2
4	15	火	3	細胞核の生化学	遺伝子転写と翻訳	生化学・伊藤	第2
4	15	火	4	細胞核の生化学	真核生物の遺伝子転写制御	生化学・伊藤	第2
4	21	月	3	有機電子論	電子の流れ図の書き方と考え方、反応の分類、極性反応、ラジカル反応	薬学部・大庭 誠	第2
4	21	月	4	不飽和炭化水素の化学	アルケン、アルキン、芳香族化合物	薬学部・齋藤 義紀	第2
4	22	火	3	代謝総論	代謝の全体像と調節	生化学・伊藤	第2
4	22	火	4	酵素の構造・機能	酵素の一般的性質、酵素の触媒機構	生化学・伊藤	第2
4	28	月	3	含酸素有機化合物の化学	アルコール、エーテル、カルボニル化合物	薬学部・齋藤 義紀	第2
4	28	月	4	含窒素有機化合物の化学	アミン、複素環化合物	薬学部・齋藤 義紀	第2
5	12	月	3	生体エネルギー学の基礎(1)	エネルギー学と熱力学	薬学部・齋藤 義紀	第2
5	12	月	4	生体エネルギー学の基礎(2)	生物学的酸化還元反応	薬学部・齋藤 義紀	第2
5	19	月	3	酵素の構造・機能	酵素と補酵素の作用機構	生化学・伊藤	第2
5	19	月	4	酵素の構造・機能	酵素反応速度論、酵素の調節機構	生化学・伊藤	第2
5	26	月	3	代謝総論	生体酸化の概念	生化学・伊藤	第2
5	26	月	4	代謝総論	ミトコンドリア呼吸鎖と酸化的リン酸化	生化学・伊藤	第2
6	2	月	3	代謝総論	アセチルCoAの異化とクレブス回路	生化学・伊藤	第2
6	2	月	4	糖質の代謝	解糖系、アセチルCoA生成	生化学・伊藤	第2
6	9	月	3	糖質の代謝	グリコーゲンの代謝	生化学・伊藤	第2
6	9	月	4	糖質の代謝	ペントースリン酸サイクル	生化学・伊藤	第2

生体分子系授業予定（1年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
6	16	月	3	糖質の代謝	糖新生、解糖と糖新生の相互関係	生化学・伊藤	第2
6	16	月	4	糖質の代謝	糖鎖修飾	生化学・伊藤	第2
6	17	火	3	糖質の代謝	ムコ多糖とプロテオグリカン	生化学・伊藤	第2
6	17	火	4	脂質の代謝	脂肪酸の酸化とケトン体形成	生化学・伊藤	第2
6	23	月	3	脂質の代謝	ケトン体形成とエネルギー	生化学・伊藤	第2
6	23	月	4	脂質の代謝	脂肪酸の合成	生化学・伊藤	第2
6	24	火	3	脂質の代謝	不飽和脂肪酸とエイコサノイド	生化学・伊藤	第2
6	24	火	4	脂質の代謝	貯蔵脂質と膜脂質	生化学・伊藤	第2
6	30	月	3	脂質の代謝	ステロイドの代謝	生化学・伊藤	第2
6	30	月	4	脂質の代謝	血漿リポ蛋白質の動態	生化学・伊藤	第2
7	1	火	3	核酸の代謝	核酸の構造と種類	生化学・伊藤	第1
7	1	火	4	核酸の代謝	ヌクレオチドの合成	生化学・伊藤	第1
7	7	月	3	核酸の代謝	ヌクレオチドの分解と再利用	生化学・伊藤	第1
7	7	月	4	アミノ酸の代謝	アミノ酸の代謝と窒素平衡	生化学・伊藤	第1
7	8	火	3	アミノ酸の代謝	尿素回路	生化学・伊藤	第1
7	8	火	4	生化学実習	全体と項目1、2、3の説明	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	第1
7	14	月	3	生化学実習	1. 蛋白質の部分精製とSDS電気泳動	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1
7	14	月	4	生化学実習	〃	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1
7	15	火	2	アミノ酸の代謝	アミノ酸の誘導體と生理活性物質	生化学・伊藤	第4
7	15	火	3	生化学実習	2. カラムクロマトグラフィーに関する実験	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1
7	15	火	4	生化学実習	〃	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1
7	22	火	1	細胞膜の生化学	生体膜の構造と情報伝達機構	原研生化・浦田	第1
7	22	火	2	臓器の生化学	血液凝固と線溶系の生化学	原研生化・後藤	第1

生体分子系授業予定（1年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
7	22	火	3	v	3. 核酸の制限酵素処理とアガロース電気泳動法	生化学・伊藤、中川、水崎、相原	実1
7	22	火	4	生化学実習	〃	生化学・伊藤、中川、水崎、相原	実1
7	29	火	1	臓器の生化学	骨格筋と平滑筋の生化学	環境科学・宮西	第1
7	29	火	2	臓器の生化学	心筋細胞の生化学	環境科学・宮西	第1
7	29	火	3	ゲノム医学	ゲノム医学概論	埼玉医大・村松	第1
7	29	火	4	補講	補講	補講	第1



# 人体構造系 I

責任者	氏名	弦本敏行	内線	7021
	教室	肉眼解剖学(解剖学第二)	e-mail	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00-18:00		

対象年次・学期	1年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Human Body Structure 1		

## 1. 授業のねらい・方法・到達目標

**ねらい：**人体構造系は「肉眼解剖学」の知識を習得する学問である。講義並びに実習を通して人体の諸構造を理解するための解剖学的知識を修得するとともに、解剖学以外の基礎医学、臨床医学、社会医学などを学ぶための基礎学力をも身につける。その際学ぶ解剖学用語は、一つの概念を表現するために約束された記号であり、かつ将来、臨床医学を学ぶ上で必須の公用語でもある。また、骨学実習は骨の構造を自分の目で観察し正確に記載してゆくという科学的学習態度の初歩を身につける機会として位置づけられる。

**到達目標：**人体の肉眼解剖学的な種々の諸構造について適切な解剖学用語を用いて具体的に説明できる。

## 2. 授業内容(講義・実習項目)

骨学, 筋学, 脈管学, 内臓学, 末梢神経学の講義および骨学実習を行う

## 3. 教科書、参考書等 (★は教科書、必携)

書名	著者	出版社	定価(税抜)
★グレイ解剖学 (for students)	塩田浩平 他訳	エルゼビア・ジャパン	10,000 円
ネッター解剖学アトラス	相磯貞和 訳	南江堂	10,000 円
骨学実習の手びき	寺田春水、藤田恒夫	南山堂	4,000 円
分担解剖学1 (総説・骨学・筋学)	小川鼎三、森 於菟他	金原出版	9,300 円
分担解剖学2 (脈管学・神経系)	平沢 興 他	金原出版	10,600 円
分担解剖学3 (感覚器学・内臓学)	小川鼎三 他	金原出版	8,600 円

## 4. 成績評価の方法・基準

骨学, 筋学, 脈管学, 内臓学, 末梢神経学についての筆答試験および骨学についての実習試験を行い、総合的に評価する

- ・受験資格 講義：2/3以上出席, 実習：原則として皆出席
- ・分野と配点 骨学実習—100点, 骨学—100点, 筋学—100点, 脈管学—100点, 内臓学—200点, 末梢神経学—100点,
- ・試験と評価 ○本試験：分野毎に可否を評価  
○再試験：本試験の不合格分野のみを受験  
再試験後、課題レポート等も併せて総合的に評価する

## 5. 教員名

解剖学第二教室：弦本敏行、岡本圭史、分部哲秋、佐伯和信  
歯学部第一口腔解剖学教室：真鍋義孝、北川賀一、小山田常一

## 6. 備考(準備学習等)

- ・毎時間、教科書(グレイ解剖学)を必ず持参すること
- ・骨学実習については、実習予定表に沿って十分に予習しておく
- ・事前に配布される諸注意に沿って、必要な物を注文・購入しておくこと

人体構造系 I 授業予定 (1年後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	29	月	3	骨学1 (60分) 骨学実習1	骨学総論、全身骨格の概観	講義:解剖2・弦本 実習:解剖2・弦本、分 部、岡本、佐伯	解剖実習室
			4				
10	6	月	3	骨学2 (60分) 骨学実習2	上肢の骨・脊椎 (歯学部1年生との共修)	講義:解剖2・弦本 実習:解剖2・弦本、分 部、岡本、佐伯、歯学 部・真鍋、北川、小山田	解剖実習室
			4				
10	20	月	3	骨学3 (60分) 骨学実習3	下肢の骨・胸郭 (歯学部1年生との共修)	講義:解剖2・弦本 実習:解剖2・弦本、分 部、岡本、佐伯、歯学 部・真鍋、北川、小山田	解剖実習室
			4				
10	27	月	3	骨学4 (60分) 骨学実習4	頭蓋① (歯学部1年生との共修)	講義:解剖2・弦本 実習:解剖2・弦本、分 部、岡本、佐伯、歯学 部・真鍋、北川、小山田	解剖実習室
			4				
11	10	月	3	骨学5 (60分) 骨学実習5	頭蓋③ (歯学部1年生との共修)	講義:解剖2・弦本 実習:解剖2・弦本、分 部、岡本、佐伯、歯学 部・真鍋、北川、小山田	解剖実習室
			4				
11	17	月	3	骨学6	総括講義①	解剖2・弦本、岡本、 分部、佐伯	第1講義室 専斉ホール
			4	骨学7	総括講義②	解剖2・弦本、岡本、 分部、佐伯	第1講義室 専斉ホール
11	25	火	4	末梢神経学1	末梢神経学総論、脊髄神経①	解剖2・弦本	第1講義室
12	1	月	3	末梢神経学2	脊髄神経②	解剖2・弦本	第1講義室
			4	筋学1	筋学総論、頭頸部の筋	解剖2・弦本	第1講義室
12	2	火	4	筋学2	胸部、腹部の筋	解剖2・弦本	第1講義室
12	8	月	3	末梢神経学3	脊髄神経③	解剖2・弦本	第1講義室
			4	筋学3	背部の筋、上肢の筋①	解剖2・弦本	第1講義室
12	9	火	4	末梢神経学4	脳神経①	解剖2・弦本	第1講義室
12	15	月	3	末梢神経学5	脳神経②	解剖2・弦本	第1講義室
			4	筋学4	上肢の筋②、下肢の筋①	解剖2・弦本	第1講義室
12	16	火	4	筋学5	下肢の筋②	解剖2・弦本	第1講義室
12	22	月	3	末梢神経学6	自律神経系	解剖2・弦本	第1講義室
			4	内臓学1	内臓学総論、消化器系①	解剖2・弦本	第1講義室
1	5	月	3	脈管学1	脈管学総論、心臓①	解剖2・弦本	第1講義室
			4	内臓学2	消化器系②	解剖2・弦本	第1講義室
1	6	火	4	脈管学2	心臓②	解剖2・弦本	第1講義室
1	13	火	4	内臓学3	消化器系③	解剖2・弦本	第1講義室
1	19	月	3	脈管学3	動脈系①	解剖2・弦本	第1講義室
			4	内臓学4	呼吸器系①	解剖2・弦本	第1講義室

人体構造系 I 授業予定（1年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
1	20	火	4	脈管学 4	動脈系②	解剖 2・弦本	第 1 講義室
1	26	月	3	内臓学 5	呼吸器系②	解剖 2・弦本	第 1 講義室
			4	脈管学 5	動脈系③	解剖 2・弦本	第 1 講義室
1	27	火	4	内臓学 6	泌尿器系、男性生殖器系	解剖 2・弦本	第 1 講義室
2	2	月	3	脈管学 6	静脈系、胎児循環、リンパ系	解剖 2・弦本	第 2 講義室
			4	内臓学 7	女性生殖器系	解剖 2・弦本	第 2 講義室

# 分子遺伝系

責任者	氏名	吉浦 孝一郎	内線	7118
	教室	原研遺伝 (人類遺伝学)	e-mail	kyoshi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日～木曜日：16時～17時		

対象年次・学期	1年・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Molecular Genetics		

## 1. 授業のねらい・方法・到達目標

病気の成り立ちを理解するために重要な、分子遺伝学の基礎知識を講義する。遺伝学は多様性(variation)と遺伝(inheritance)を解析する学問である。ヒトの遺伝・多様性について基本的な暗記事項から幅広い応用力を養成し、思考力を養うことことを目的とする。本講で身につけた応用力・思考力によって、遺伝医療のみならず全ての分野の疾患の成り立ちを考察し、医療人としての重要かつ基本的な応用力・思考力を身につけることができる。

## 2. 授業内容 (講義・実習項目)

分子遺伝学の基本事項である遺伝現象、多様性の理解から始め、それらを表出する分子機構を系統講義する。DNA・染色体・ゲノムの構造と機能、疾患発症に関わる分子病理を講義する。その応用として、臨床遺伝学、遺伝子治療、医学に関する生命倫理までを講義する。本講義を通して、メンデル遺伝のマクロの見方から、分子遺伝のミクロの見方までを身につけ、単一遺伝子病から多因子病までをDNAから統一的に理解し、将来の臨床の場に役に立てられるような幅広い知識と応用力を習得して欲しい。

## 3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
遺伝医学への招待, 第4版	新川 詔夫・阿部 京子	南江堂	1,890 円
遺伝医学やさしい系統講義	福島 義光 監修	ダイカル・サイエンス・インターナショナル	4,725 円
ハートウェル遺伝学, 第1版	菊池 昭彦 監訳	ダイカル・サイエンス・インターナショナル	10,500 円
トンプソン・トンプソン 遺伝医学, 第7版	福島 義光 監訳	ダイカル・サイエンス・インターナショナル	10,500 円

## 4. 成績評価の方法・基準

- 期末試験：授業内容にそった筆答試験（100点満点）  
筆答試験60点以上を合格とする。

## 5. 教員名

大学院医歯薬学総合研究科

人類遺伝学 吉浦孝一郎（教授），木下晃（講師）

分子医学 永山雄二（教授），荻朋男（准教授）

放射線災害医療学 光武範吏（准教授）

精神神経科学 黒滝直弘（講師）

薬物治療学 塚元和弘（教授），近藤新二（准教授）

産婦人科学 三浦清徳（准教授）

先端生命科学支援センター 木住野達也（准教授）

熱帯医学研究所 平山謙二（教授）

非常勤講師 松本直通 横浜市立大学大学院環境分子医科学（教授）

” 原田直樹 京都大学iPS細胞研究所 基盤技術研究部門（准教授）

” 松本 正 みさかえの園むつみの家（医師）

” 近藤達郎 みさかえの園むつみの家（医師）

## 6. 備考 (準備学習等)

上記教科書による復習を勧める。期末試験の再試験は行なわないので注意。体調不良、事故等の突発的な事情による試験欠席については、追試験を考慮する。

分子遺伝系授業予定（1年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	29	月	1	遺伝医学総論I	細胞生物学総論	原遺・吉浦	第1
9	29	月	2	遺伝医学総論II	ヒトの形式遺伝と特性I	原遺・吉浦	第1
10	6	月	1	遺伝医学総論III	ヒトの形式遺伝と特性II	原遺・吉浦	第1
10	6	月	2	遺伝子の構造I	核酸の生化学	原遺・吉浦	第1
10	20	月	1	細胞遺伝学I	染色体の構造と解析法	非常勤・原田	第1
10	20	月	2	細胞遺伝学II	臨床細胞遺伝学・染色体異常症	非常勤・原田	第1
10	27	月	1	遺伝子の構造II	ヒトゲノムの構成、遺伝子の構造と機能	原遺・木下	第1
10	27	月	2	遺伝子の構造III	DNA複製と修復機構	分子設計・荻	第1
11	10	月	1	転写と翻訳I	転写・翻訳の機構	薬物治療学・近藤（新）	第1
11	10	月	2	転写と翻訳II	ヒト遺伝子の発現と制御	薬物治療学・近藤（新）	第1
11	17	月	1	遺伝子の構造IV	分子遺伝学に必要な分子生物学的技術	原遺・吉浦	第1
11	17	月	2	分子病理I	遺伝子検査法と疾患発症機構I	原遺・吉浦	第1
12	1	月	1	分子病理II	遺伝子検査法と疾患発症機構II	原遺・吉浦	第1
12	1	月	2	分子病理III	遺伝子検査法と疾患発症機構III	精神科・黒滝	第1
12	8	月	1	分子病理IV	エピジェネティクス機構	先導生科セ・木住野	第1
12	8	月	2	分子病理V	エピジェネティクスと疾患	先導生科セ・木住野	第1
12	15	月	1	臨床遺伝学I	遺伝性疾患の臨床I	非常勤・近藤（達）	第1
12	15	月	2	臨床遺伝学II	遺伝性疾患の臨床II	非常勤・近藤（達）	第1
12	22	月	1	ゲノム医学研究	最先端ゲノム医学研究	非常勤・松本（直）	第1
12	22	月	2	分子病理学VI	腫瘍遺伝学	原研細胞・光武	第1
1	5	月	1	集団遺伝学	集団遺伝学、遺伝子多型、遺伝的浮動	原遺・吉浦	第1
1	5	月	2	多因子遺伝基礎	多因子疾患と関連解析の基礎	原遺・吉浦	第1
1	19	月	1	テーラーメイド医療	生活習慣病の分子遺伝学	薬物治療学・塚元	第1
1	19	月	2	分子病理学VII	ミトコンドリアDNAと遺伝病	原研遺伝・木下	第1
1	26	月	1	テーラーメイド医療	薬理遺伝学	薬物治療学・塚元	第1
1	26	月	2	遺伝統計学	遺伝学に用いられる統計，計算	原遺・吉浦	第1
2	2	月	1	免疫遺伝学	免疫関連遺伝子と遺伝学	非常勤・平山	第2
2	2	月	2	出生前診断	遺伝性疾患と出生前診断	産婦人科・三浦	第2
2	3	火	1	疾患遺伝子機能解析法	遺伝子改変動物の疾患解析への応用	原研遺伝・木下	第1
2	3	火	2	遺伝子治療	遺伝子治療の原理と応用	分子医学・永山	第1
2	9	月	1	遺伝カウンセリング	遺伝カウンセリング	非常勤・松本（正）	第1

# 神 経 ・ 感 覚 器 系 I

責 任 者	氏 名	森 望	内 線	7017
	教 室	神経形態学 (解剖学第一)	e-mail	morinosm@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日の16:00-18:00		

対象年次・学期	1年・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Structural principles of human brain and the nervous system		

## 1. 授業のねらい・方法・到達目標

神経解剖学の教育目標は、ヒトの脳神経系の形態的な成り立ちとその由来を学び、高度に発達したヒトの脳機能発現の構造基盤を理解することにある。この学問はもともと肉眼解剖学の延長線にあったが、前世紀初頭における神経組織学の発達とニューロン説の確立を経て、神経ネットワークの学問として発展してきた。最近では分子神経生物学やシステムバイオロジーの発達とともに、現代神経科学の構造基盤を形作る学問として重要な位置を占める。ここでは、臨床現場での各種脳神経疾患への対処に通ずる基礎学問として、脳神経系および感覚器系の構造と解剖学用語を学ぶ。微細構造レベルでの神経解剖や神経回路再編等の現代神経科学の構造的な要素も学習する。また、脳画像の基礎と併せて、近年急速に発達しつつある生体脳のイメージングについても学習する。脳神経系と感覚器系の解剖学用語を理解するとともに、その構造的成り立ちを総合的に理解することを到達目標とする。

(なお、脳解剖の実習は2年時に「神経・感覚器系 II」として学習する。)

## 2. 授業内容 (講義・実習項目)

授業は、系統的な講義として構成する。アトラスは必携とし、その図を理解することが重要。講義は教科書に準じつつプリントを併用。神経系全体の総論と各論、感覚器の構造について学ぶ。分子脳科学、脳画像の見方、脳内分子イメージングの方法論等についても学習する。基本的には構造の理解を主とするが、それぞれの部位の機能成立の構造基盤を神経回路のつながりとして理解することが重要。無論、神経解剖学用語(日英)の理解も大切。

## 3. 教科書、参考書等 (★ は教科書、必携)

書 名	著 者	出版社	定 価
★解剖学アトラスⅢ神経系と感覚器 (第6版)	W.Kahle(著)、平田(訳)	文光堂	5,600円
神経解剖カラーテキスト (第2版)	A.R. Crossman, C. Neary(著) 野村、水野(訳)	医学書院	5,600円
プロメテウス解剖学アトラス (頭部/神経解剖)	坂井、河田(監訳)	医学書院	11,000円
人体の正常構造と機能 (神経系1、2)	河田、稲瀬他	日本医事新報社	各6,200円
神経科学- 脳の探究-	Mark F.Bear 他(著)、加藤他(訳)	西村書店	7,600円
脳単	原島(著)	NTS	2,730円

## 4. 成績評価の方法・基準

レポート、小テスト等30%、期末試験70%とするが授業への参加態度も含めて総合評価する。

## 5. 教員名

解剖学第一：森 望、安田邦彦

非常勤講師：佐藤真(大阪大学医学部教授)、木山博資(名古屋大学医学部教授)、  
岩坪威(東京大学医学部教授)

## 6. 備考 (準備学習等)

神経・感覚器系 I 授業予定 (1年後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教官	教室
9	30	火	1	講義 1	概論 1 神経系序説 (総論、脳の概観、神経解剖学の歴史)	森	第 1
10	7	火	1	講義 2	概論 2 神経系の基本要素	森	第 1
10	14	火	1	講義 3	特別講義: TBA	佐藤 (非常勤)	第 1
10	21	火	1	講義 4	概論 3 神経系の発生と進化	森	第 1
10	28	火	1	講義 5	脊髄	森	第 1
11	4	火	1	講義 6	脳幹と脳神経 1 (延髄、橋、中脳)	森	第 1
11	11	火	1	講義 7	脳幹と脳神経 2 (脳神経)	安田	第 1
11	18	火	1	講義 8	小脳	森	第 1
11	25	火	1	講義 9	間脳 1 (視床、特に背側視床)	森	第 1
11	25	火	2	講義 10	間脳 2 (視床上部、腹側視床、視床下部と下垂体)	森	第 1
12	2	火	1	講義 11	終脳 1 (概論、嗅皮質、扁桃体、海馬)	森	第 1
12	2	火	2	講義 12	終脳 2 (大脳新皮質、層構造、皮質領野)	森	第 1
12	9	火	1	講義 13	終脳 3 (大脳辺縁系と大脳基底核)	森	第 1
12	9	火	2	講義 14	終脳 4 (線維路、他)	森	第 1
12	16	火	1	講義 15	脳血管系と脳脊髄液系	森	第 1
12	16	火	2	講義 16	特別講義: 植物神経系 (自律神経系)	木山 (非常勤)	第 1
1	6	火	1	講義 17	脳機能系 (運動系・感覚系)	森	第 1
1	6	火	2	講義 18	感覚器 1: 視覚系	森	第 1
1	13	火	1	講義 19	感覚器 2: 聴覚・平衡覚系	森	第 1
1	13	火	2	講義 20	感覚器 3: 嗅覚系・味覚系	森	第 1
1	20	火	1	講義 21	脳組織化学と脳画像 (生体脳イメージング)	森	第 1
1	20	火	2	講義 22	病態脳/神経変性疾患 (神経学・老年学との接点)	岩坪 (非常勤)	第 1
1	27	火	1	講義 23	機能的神経解剖 (神経生理学との接点)	森	第 1
1	27	火	2	講義 24	化学的神経解剖 (神経薬理学との接点)	森	第 1

# 発 生 ・ 組 織 系 I

責 任 者	氏 名	小路 武彦	内 線	7027
	教 室	解剖学第三 (組織発生解剖学)	e-mail	tkoji@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	(木) 16:30~18:00		

対象年次・学期	1年・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	0.5
英語名	Human development and Histology I		

## 1. 授業のねらい・方法・到達目標

医師となるために必要とされる正常人体発生学の基礎知識を修得する。この知識は、今後修得する基礎および臨床科目を十分に理解するのに必要である。よって、それら諸科目との関連性を強調しながら、現代発生学の知識のエッセンスを伝えたい。

本講義では、各器官原基の発生及びその異常の特徴を適切な用語を用いて説明出来ることを到達目標とする。

## 2. 授業内容 (講義・実習項目)

後期に人体発生学全般について発生ステージに沿って講義を行う。講義は第一講義室で行う。

## 3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
参考書			
カラー機能組織学 (原著第2版)	J. B. Kerr	医歯薬出版	10,500 円
The Developing Human: Clinically Oriented Embryology (9版)	K. L. Moore & T. V. N. Persuad	Saunders	6,207 円
標準細胞生物学 (2版)	石川春律、近藤尚武 柴田洋三郎 編	医学書院	5,670 円
ラングマン人体発生学 (10版)	T. W. Sadler	医歯薬出版	8,820 円
ムーア人体発生学 (8版)	K. L. Moore	医歯薬出版	12,600 円
永遠の不死：精子形成細胞の生物学	小路武彦 編	サイエンス社	2,310 円

## 4. 成績評価の方法・基準

成績の評価は、学期末に行う筆記試験の結果によって決定する。なお、本科目試験の受験には講義時間数の2/3以上の出席が必要であり、これに満たない場合は失格となる。

試験は100点満点とし、合計点が60点以上で合格とする。再試験は年度末に1回だけ行う。

## 5. 教員名

解剖学第三 : 小路武彦

非常勤講師 : 井上靖久、江島邦彰

## 6. 備考 (準備学習等)

一年次前期の「Human Biology」で学んだ内容を復習しておくこと。



発生・組織系 I 授業予定 (1 年後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	30	火	3	1. 生殖細胞形成	A. 体細胞分裂と成熟分裂	解剖 3・小路	第 1
10	7	火	3	1. 生殖細胞形成		解剖 3・小路	第 1
10	14	火	3	2. 排卵から着床まで		非常勤・井上	第 1
10	21	火	3	3. 2 層性胚盤		非常勤・井上	第 1
10	28	火	3	4. 3 層性胚盤		非常勤・井上	第 1
11	4	火	3	5. 胚子期	A. 三胚葉誘導体 B. 2 か月中の外形	非常勤・井上	第 1
11	11	火	3	6. 胎児期	A. 胎児の発生	非常勤・井上	第 1
11	18	火	3	7. 体腔と漿膜	A. 体腔の形成	非常勤・江島	第 1

# 内 臓 機 能 ・ 体 液 系 I

責 任 者	氏 名	蒔田 直昌	内 線	7031
	教 室	分子生理学（生理学第一）	e-mail	nagasakimp@gmail.com
	オフィスアワー	講義曜日の17:00～		

対象年次・学期	1年・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1
英語名	Physiology of Visceral Function and Body Fluid I		

## 1. 授業のねらい・方法・到達目標

正常の生命現象を主として機能的な側面から探求することによって、「命がどうできているか」という医学の基礎知識を学ぶ。臨床の場においても、生体の生理現象や病的状態を個体・臓器・細胞・遺伝子という異なるレベルで観察・考察し、知識を臨床に応用させることの重要性を体験する。個々の内臓機能を学ぶ臓器の生理学を基礎に、恒常性維持のための統合的調節機構の観点から生体機能を理解できるよう講義を行う。

## 2. 授業内容（講義項目）

講義項目

- 1) 細胞生理学
- 2) 自律神経系
- 3) 血液・体液
- 4) 呼吸
- 5) 酸塩基平衡

講義は指定した教科書の図を中心にパワーポイントで説明を交えて行う。講義用スライド・資料は各自以下のHPからダウンロードすること。基本的に、紙の資料は配布しない。

- 分子生理学HP <http://www.nagasaki-molphys.org>
- 長崎大学Web Class <https://webclass.cc.nagasaki-u.ac.jp/webclass/login.php>

## 3. 教科書

書 名	著 者	出 版 社	本体価格
標準生理学 第8版	小澤滯司 他	医学書院	12,000円
ギャノン生理学 24版	岡田泰伸 他	丸善	10,000円
ボロン ブールペープ 生理学	泉井 亮 他	西村書店	9,500円

## 4. 成績評価の方法・基準

筆答試験で評価し、60点以上を合格とする。再試験は一度のみ行うことがある。試験の受験資格、追試験に関しては医学部の規定通り。

## 5. 教員名

講義担当 分子生理学： 蒔田直昌、辻 幸臣、石川泰輔  
 非常勤講師： 上田陽一（産業医大）

## 6. 備考

内臓機能・体液系 I 授業予定（1年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	30	火	2	細胞生理	細胞生理学	生理1・蒔田	第1
10	7	火	2	自律1	自律神経系とストレス反応	産業医大・上田	第1
10	14	火	2	自律2	自律神経の特徴と反射調節	生理1・蒔田	第1
10	21	火	2	血液と体液	骨髄幹細胞、赤血球の機能、ヘモグロビン	生理1・辻	第1
10	28	火	2	血液と体液	白血球・リンパ球と生体防御	生理1・辻	第1
11	4	火	2	血液と体液	血小板、血液凝固、線溶、補体系	生理1・辻	第1
11	11	火	2	血液と体液	血漿成分の機能	生理1・辻	第1
11	18	火	2	自習			第1
11	25	火	3	血液と体液	細胞外液と細胞内液	生理1・辻	第1
12	2	火	3	呼吸1	肺の構造、呼吸運動、肺気量	生理1・石川	第1
12	9	火	3	呼吸2	肺コンプライアンス、気道抵抗、閉塞性と拘束性疾患	生理1・石川	第1
12	16	火	3	呼吸3	ガス交換（酸素の運搬）、ヘモグロビンと酸素飽和度	生理1・石川	第1
1	6	火	3	呼吸4	ガス交換（炭酸ガスの運搬）、換気血流比	生理1・石川	第1
1	13	火	3	呼吸5	肺循環（肺血流、肺血管抵抗、肺内圧）	生理1・石川	第1
1	20	火	3	呼吸6	呼吸調節、呼吸中枢	生理1・石川	第1
1	27	火	3	酸・塩基平衡	血液ガス、pH、酸・塩基平衡調節	生理1・石川	第1
2	3	火	3	酸・塩基平衡	呼吸性と代謝性酸・塩基平衡異常	生理1・石川	第1

## プレリサーチセミナー

責任者	氏名	西田 教行	内線	7057	
	教室	感染分子解析学	e-mail	noribaci@nagasaki-u.ac.jp	
	オフィスアワー	木曜日午後4時30分～午後5時30分			
対象年次・学期		1年～3年：通年		講義形態	担当教員が講義形態を決定する。
必修・選択		必修 (研究医枠及び熱帯医学研究医枠)		単位数	各1単位
英語名		Pre research seminar			

### 1. 授業のねらい・目標

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

### 2. 配属教室の選択方法

配属教室は、2年次前期終了後に、科目責任者と相談のうえ、仮配属として決定し、3年次のプレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで本配属とする。

また、リサーチセミナーの海外実習については、配属教室と相談のうえ、派遣学生としての応募を可能とする。

### 3. 配属教室

医学部基礎系、熱帯医学研究所及び原爆後障害医療研究所の各教室

### 4. 授業内容等

1年次：論文研究（ゼミ形式）と各教室研究内容の紹介セミナー

2年次前期：先導生命科学研究支援センター及び共同利用研究センターにおいて、研究医実習を行う。

2年次後期～3年次：配属教室において、研究テーマ・目標を設定し実験を行う。

### 5. 成績評価の方法・基準

1年次：出席状況及び課題レポート等により総合判断で評価する。

2年次：出席状況及び課題レポート等により総合判断で評価する。

3年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が100点満点で評価する。

### 6. 指導教員など

医学部基礎系教室等の教員

### 7. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

# English for International Medicine

Instructors: Luc Loosveldt

Class Time : to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be announced in class

Course Objectives	
<p>This course is designed for students interested in careers in international medicine. Focus will be on developing relevant and effective communication techniques, building fluency in spoken and written English, and reinforcing critical thinking skills in English. The metaphorical language, word collocations and grammar patterns common in medical English will be explored through readings, video and radio programs to further students' command of the language. This course includes an e-learning component that will give students the opportunity for additional practice.</p>	
Required Textbooks	
<p>A range of videos, texts, radio program recordings reporting on global health issues will be introduced in class; all materials will be made available on NU-minds, the English section's website</p>	
Topics	
1	First topic - pre-discussion, useful vocabulary and phrases, assignment of group roles
2	Small group discussion of readings - preparation of introductory presentation
3	Short presentations with Q&A
4	In-group review of short presentations + choosing the next topic
5	Small group discussion of readings - preparation of second short presentation
6	Short presentations with Q&A
7	In-group review of short presentations + choosing the next topic
8	Small group discussion of readings - preparation of third short presentation
9	Short presentations with Q&A
10	In-group review of short presentations + choosing the next topic
11	Small group discussion of readings - preparation of fourth short presentation
12	Short presentations with Q&A
13	Choosing the topic for the final presentation, preparing the poster
14	Review of the poster + practice sessions
15	Final poster presentations + evaluations and review of performance
Course work and Evaluation	
<p>Students will be evaluated on the basis of classwork, assignments, group work, group presentation, on-line forum participation, written assignments, and review tests. A detailed breakdown of the evaluation process will be provided in class.</p>	
<p><i>*The above syllabus is meant as a general guide of some of the topics that will be covered, not a definite time table.</i></p>	

# 地域医療ゼミ

( テーマ: へき地・離島医療入門 )

責任者	氏名	調 漸	内 線	7774
	教室	へき地病院再生支援・ 教育機構	e-mail	shirabe@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	10:00-16:00		
対象年次・学期	1年：前期		講義形態	講義・実習
必修・選択	必修 (地域医療枠・地域医療特別 枠)		単位数	1
英語名				

## 1. 授業のねらい・方法・到達目標

長崎県で展開されているへき地や離島医療の現状を学ぶ

## 2. 授業科目の選択方法

新入生オリエンテーション時に説明する

## 3. 授業の内容

平戸市の平戸市民病院内のへき地病院再生支援・教育機構、地域臨床教育拠点において合宿形式で保健・医療・福祉が連携した地域包括医療・ケアを実習と講義を通して学習する。地域の最前線での経験を基に来るべき未来に求められる医療について考える。

坂本キャンパスで、地域医療の最前線で活躍している医療者による講義を行う。

## 4. 開講時間

夏期休暇中に2泊3日程度の集中講義と、坂本キャンパスでの講義（金曜日6時限目）を行う。

## 5. 教科書、参考書等

インターネット検索サイトや書籍などを利用して地域医療について調べておくことが望ましい。

## 6. 成績評価の方法・基準

出席、合宿参加、レポート提出

## 7. 教員名

中桶 了太  
調 漸

## 8. 備考 (準備学習等)

臨床教育拠点への移動は公共交通機関の利用が望ましい。

# 地域医療ゼミ

( テーマ: しまで学ぶ地域医療 )

責任者	氏名	前田 隆浩	内線	7578, 0959-74-5045
	教室	離島・へき地医療学講座	e-mail	tmaeda@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	午後4時30分～午後5時30分		

対象年次・学期	1年：前期・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修 (地域医療枠・地域医療特別枠)	単位数	前期, 後期 各1単位
英語名	Community medicine to learn in remote islands		

## 1. 授業のねらい・方法・到達目標

島嶼部における地域医療の現場を見て、地域における保健・医療・福祉の役割と機能、そして地域包括医療についての基礎を理解する。

## 2. 授業科目の選択方法

新入生オリエンテーション時に説明する。

## 3. 授業の内容

長崎県離島をはじめとした地域医療の現場に滞在し(2泊3日)、地域医療関連施設において見学あるいは体験実習を行った上で、地域医療と地域包括ケアについての討論を行う。

## 4. 開講時間

平成26年8月22日～24日に、長崎県五島市で開催する。

## 5. 教科書、参考書等

地域医療テキスト 自治医科大学(監修) 医学書院 ISBN978-4-260-00805-1  
(購入は必須ではありません。当講座で貸し出しします)

## 6. 成績評価の方法・基準

出席・態度・発表を加味して評価する。

## 7. 指導教員など

離島・へき地医療学講座、地域医療学分野、へき地病院再生支援・教育機構  
地域包括ケア教育センター

## 8. 備考(準備学習等)

地域医療について事前に学習し、自分の意見を持ってからゼミに臨むことが望ましい。交通手段は、事前に学務係よりフェリーチケットが配布される。宿泊費の負担は無いが、食費については実費を徴収する予定である。

# 熱帯医学ゼミ

( テーマ: 熱帯医学入門 )

責任者	氏名	有吉 紅也	内線	7840
	教室	熱帯医学研究所	e-mail	kari@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月曜12:00～12:30		

対象年次・学期	1年：前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修 (熱帯医学研究医)	単位数	1
英語名	Introduction of Tropical Medicine		

## 1. 授業のねらい・方法・到達目標

授業のねらいは、将来熱帯医学研究医を目指す学生に、熱帯医学における基礎医学研究の重要性を理解させ、熱帯医学に関連する幅広い視野を持たせることにある。その方法として、本学において進行中の基礎医学研究活動を紹介し、本学の取り組みに興味を抱かせる。

## 2. 授業科目の選択方法

新入生オリエンテーション時に説明する。

## 3. 授業の内容

熱帯医学に関係する基礎医学研究を実施している本学医学系基礎研究分野教室及び熱帯医学研究所基礎教室の教授が、各分野の背景を平易な用語で説明しながら、研究活動の概要を紹介する。

## 4. 開講時間・場所

月曜日 5校時・熱帯医学研究所1階小会議室

## 5. 教科書、参考書等

## 6. 成績評価の方法・基準

出席状況、レポート(英文)提出等を考慮して評価する。

## 7. 指導教員など

## 8. 備考(準備学習等)



# 医学ゼミ

責任者	氏名	西田 教行	内線	7057
	教室	感染分子解析学	e-mail	noribaci@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日午後4時30分～午後5時30分		

対象年次・学期	1年：前期、後期 2年：前期、後期 3年：前期 4年：前期、後期	講義形態	担当教員が講義形態を決定する。
必修・選択	必修	単位数	前期、後期各1
英語名	Small group medical seminar		

## 1. 授業のねらい・方法・到達目標

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教官と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。AO学生は、医学ゼミを通して当該領域の知識を深める。

## 2. 授業科目の選択方法

- A. 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教官、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- B. 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- C. 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

## 3. 教科書、参考書等

担当教員が提示する。

## 4. 成績評価の方法・基準

1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期・後期に開講する。3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

## 5. 指導教員など

医学科、熱帯医学研究所、先導生命支援センター教員

## 6. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

平成26年度「医学ゼミ」開講テーマ一覧(1年生)

教室名	責任者名	ゼミテーマ (サブタイトル)	目的・方針	内容	対象学年 開講時期	受講可能 人数	開講時間	場所	評価方法	備考	受講可能 人数
龍島・へき地医療学講座 地域医療学分野	前田隆浩	しまで学ぶ地域医療集中ゼミ	島嶼部における地域医療の現状を見て、地域における保健・医療・福祉の役割と機能、そして地域包括医療についての基礎を理解する。	長崎県龍島をはじめとした地域医療の現場に滞在し(原則3泊4日)、地域医療に関連する講義、ワークショップ、施設見学あるいは体験実習を行った上で、地域医療と地域包括ケアについての討論を行う。	1年前期 2年前期 3年前期 ※原則、地域対象。	24名	8月22日(金)～8月24日(日)で前泊は不要です。	長崎県五島市	出席・発表・レポート	地域枠入学生を対象とする。地域枠入学生以外の学生の希望については、定数に空きがある場合に受け入れる。※費用についてはセミナーを通して4000円/人を予定しています。	24名
熱研内科	有吉直也	熱帯医学入門	授業のねらいは、専ら熱帯医学研究医を目指す学生に、熱帯医学における基礎医学研究の重要性を理解させ、熱帯医学に関する幅広い視野を持たせることにある。その方法として、本学において進行中の基礎医学研究活動を紹介し、本学の取り組みに興味を頂かせる。	熱帯医学に関する基礎医学研究を実施している本学医学系基礎研究分野教室及び熱帯医学研究所基礎教室の教授が、各分野の背景を平易な用語で説明しながら、研究活動の概要を紹介する。	1年前期 2年前期	10名程度	月曜日5校時	熱帯医学研究所1階小会議室	出席状況、レポート(英文)提出等を考慮して評価する。	熱帯医学研究医AO学生を優先	10名程度
地域医療学	前田隆浩	地域医療学入門	地域医療の現状について、自ら調べ、現場のプロフェッショナルから話を聞き、地域医療を理解する。	・地域医療に関する論文や記事、教科書、書籍をまとめる。 ・WS形式で知識を共有し理解を深める。 ・実地に地域医療の現場のプロフェッショナルに話を聞く。 ・現在の地域医療について把握し、地域医療の今後について考える。 ・月に一回程度行われる、地域医療の現場で働く人を招いて行う研究会に出席する。	1年前期 1年後期 2年前期 3年前期 ※1年は地域枠のみ。4年は定員に満たない場合受入。	10名	・水曜夕方17時～18時30分(3回程度) ・月一回程度金曜17時30分～20時30分(地域医療研究会)(4回程度) 上記2つ全てに出席が必要です。	地域医療学分野セミナー室 (医学部基礎棟6階)ボナンバ会館(予定)	出席とレポートとゼミ受講態度	1年次は地域医療待の学生のみ受け入れる。 4年次は定員に満たない時に受け入れる。	10名
原研国際	高村 昇	国際保健入門(1)	AO国際枠で入学した学生を中心に、世界を目指す医師・医学者を養成する目的で、原研における活動、特に国際保健分野における活動を紹介する。勿論、一般入試での学生も歓迎する。	原研各分野の教員が、それぞれの分野の背景・活動内容を平易に説明・紹介する。あわせて国際保健、国際医療のトピックについて講演を聴取し、発表会を行うことで、国際保健・国際医療の実際についてより深い理解を得る。	1年前期	10名	月曜日5校時	原研棟3階コミュニケーションセンター	出席状況、ゼミにおける発表内容を考慮して評価する。		10名
消化器内科	田浦 直太	症例から学ぶ肝疾患	肝臓病を基礎から学ぶ	肝疾患についてのレクチャー	1年前期 2年前期 3年前期 4年後期	10名	水曜午後5時から6時	9階医局会議室	セミナーでの内容	高学年優先	10名
消化器内科	田浦 直太	症例から学ぶ肝疾患	肝臓病を基礎から学ぶ	肝疾患についてのレクチャー	1年後期 4年後期	10名	水曜午後5時から6時	9階医局会議室	セミナーでの内容	高学年優先	10名
病態病理	榎岡麻也、加馬志郎、田中祥典	肺がんの病理診断(基礎)	一つの疾患(今回は肺がん)を通して疾患の病理診断のイロハと基本的な問題点を学ぶ	肺の構造から始まり、肺がんの病理組織型を学び、最新の診断と論文によるアップデートを行う。これにより病理診断がどのように臨床に生かされているかを知ることを目的とする。	1年後期 2年後期	10名	金曜1校時	病院2F病理部長室	理解度とディスカッションのレベル		10名
救命救急センター	田嶋 修	症例から救急医療を学ぶ	救急医療に必要な基礎的知識や考え方を症例を通して学ぶ	実際に救命救急センターで治療した症例の画像やデータを用いて、治療に必要な基礎的知識、およびその臨床への応用の方法を学ぶ。	1年前期 2年前期 3年前期 4年前期	10名	金曜日1校時	救命救急センター医局	出席、態度、レポートなどにより総合的に評価する。		10名

## English Foundation Course for First Year Medical Students

**Instructors:** Luc Loosveldt  
Jim Briganti

**Class Time:** to be decided

**E-mail:** [lluc@nagasaki-u.ac.jp](mailto:lluc@nagasaki-u.ac.jp)  
[jbriganti@nagasaki-u.ac.jp](mailto:jbriganti@nagasaki-u.ac.jp)

**Office Hours:** to be announced in class

### Course Objectives

The aim of the course is to develop students' English and critical thinking skills in a cooperative and supportive environment. Students will be asked to actively engage in English with the materials covered in their Human Biology course. The language skills learned in this course will serve as a foundation for future Medical English courses and for the types of language skills needed in medical students future roles as healthcare professionals.

### Book

*Human Biology 13th edition*, McGraw-Hill, Mader & Windelspecht

### Syllabus\*

1	Introduction and overview of the course – self-introductions, study goals, first reading assignment
2	Medical Vocabulary + first reading
3	Main Ideas and Supporting Ideas - finding the main idea, skimming and scanning
4	Main Ideas and Supporting Ideas - using outlines
5	Main Ideas and Supporting Ideas - Paragraphs and the Topic Sentence
6	Organizational Structure - Organizing information, Cause-and-effect
7	Organizational Structure - Organizing information, recognizing and understanding relationships within a text
8	Organizational Structure - Organizing information, recognizing reference
9	Coherence and Cohesion - connectors and transition words, speech markers
10	Coherence and Cohesion - Cohesion and coherence in the paragraph
11	Summarizing - paraphrasing
12	Summarizing - preparing narrative summaries
13	Non-verbal communication and Inference
14	Final group presentations and assessment
15	Final group presentations and assessment

### Course work and Evaluation

Students will be evaluated on the basis of class participation, assignments, vocabulary quizzes, group presentations and final group reports.

*\*The above syllabus is meant as a general guide of some of the topics that will be covered, not a definite time table.*

